

全国児童養護施設調査2018 -社会的自立と支援に関する調査- 結果概要

2018年11月

特定非営利活動法人ブリッジフォースマイル



はじめに

- 本調査は、全国の児童養護施設を退所した人の進学や就労の状況、施設の自立支援の現状などを把握し、自立に向けた支援の課題を明らかにすることを目的として実施したものです。
- 2018年6月～8月の間に、全国の児童養護施設(620カ所)の職員に対してアンケート調査を実施し、180件(回答率29.0%)の回答を得ました。また、2399人分の退所者についてのデータを得ました。

児童養護施設の職員へのアンケート調査

施設における2014～2018年の高校卒業後退所者について

- 退所年
- 退所直後の進路、途中経過、2018年6月現在の状況
- 現在の住まい
- 利用した支援制度(利用中のものを含む)

施設の自立支援、退所後支援について

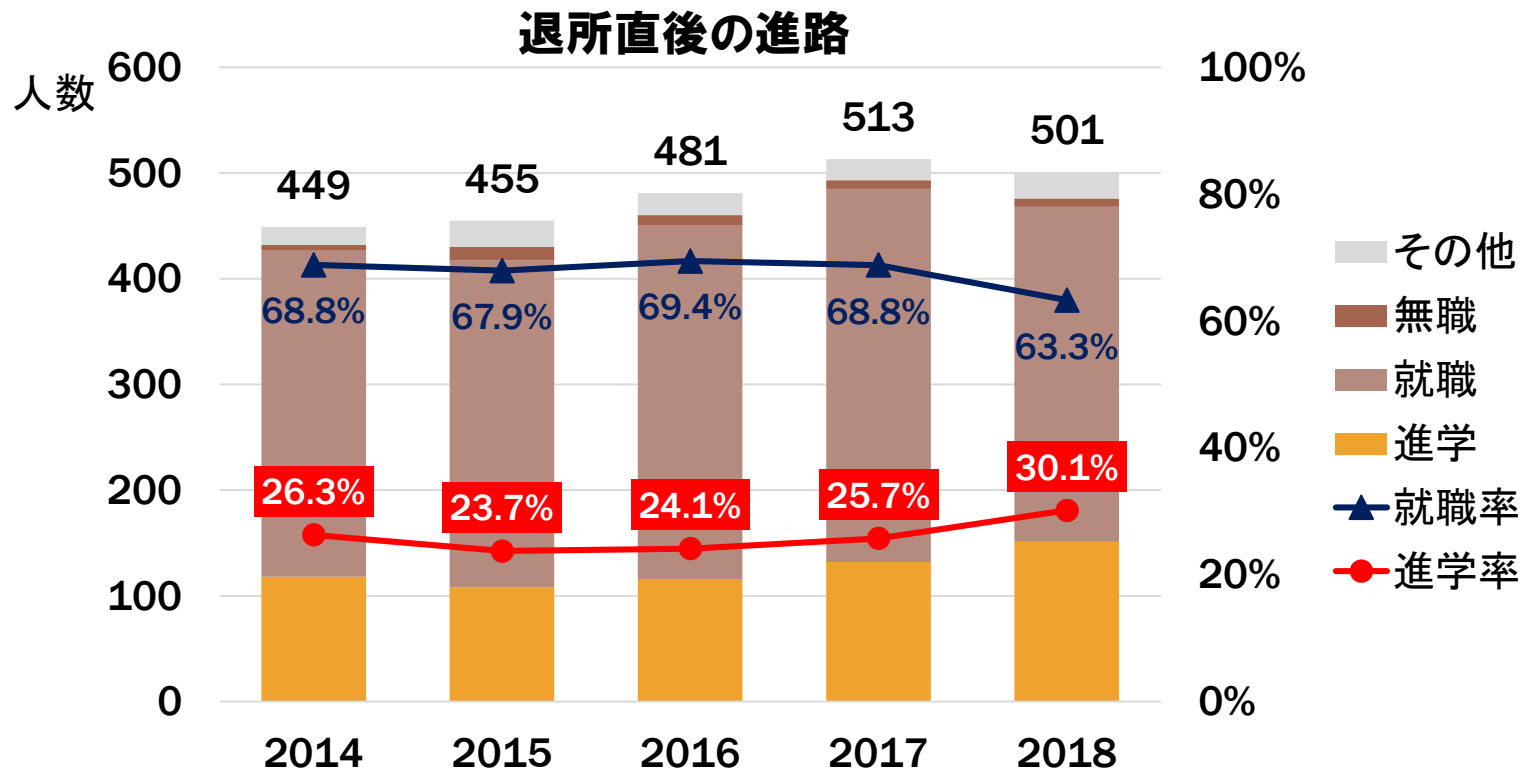
- ボトルネックとなっているもの
- 取り組んでいること、困っていること(自由記載)

児童養護施設退所者の自立に向けた支援の課題を明らかにする

調査結果①

支援制度の充実によって進学率は上昇

- 退所者の2014年～2017年の進学率は25%前後でしたが、2018年は30%を超えました。
- 厚生労働省による貸付制度、文部科学省による給付型奨学金制度の拡充のほか、民間の奨学金制度の充実が影響したものと考えられます。

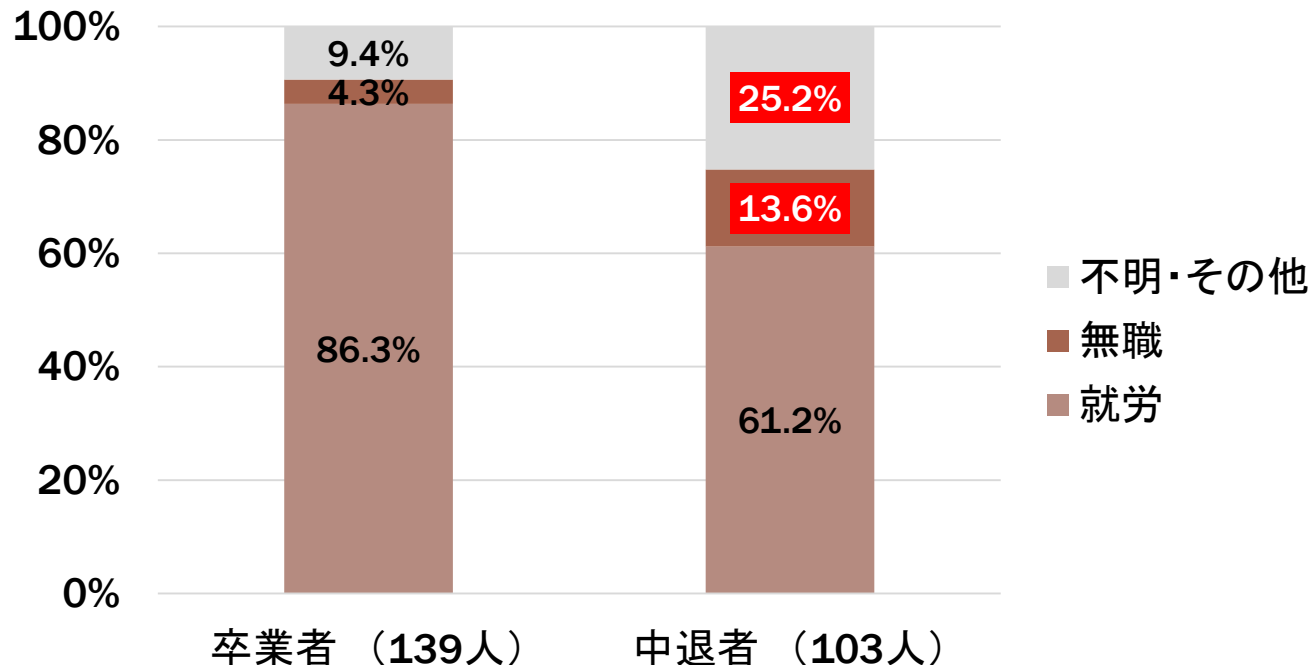


調査結果②

進学者支援制度は、中退者に配慮した運用が必要

- 退所直後に進学した人625人のうち、中退者数は103名(16.5%)と、一般進学者よりも高くなっていました。また、中退後の無職率は13.6%、現況不明率は25.2%と、卒業者よりも高くなっていました。
- 中退後にこそ丁寧な支援が欠かせません。特に給付型奨学金の充実や、返済免除や猶予等の貸付金制度の運用方法の改善が求められます。

大学等の中退または卒業した施設退所者の現状
(2018年6月現在)

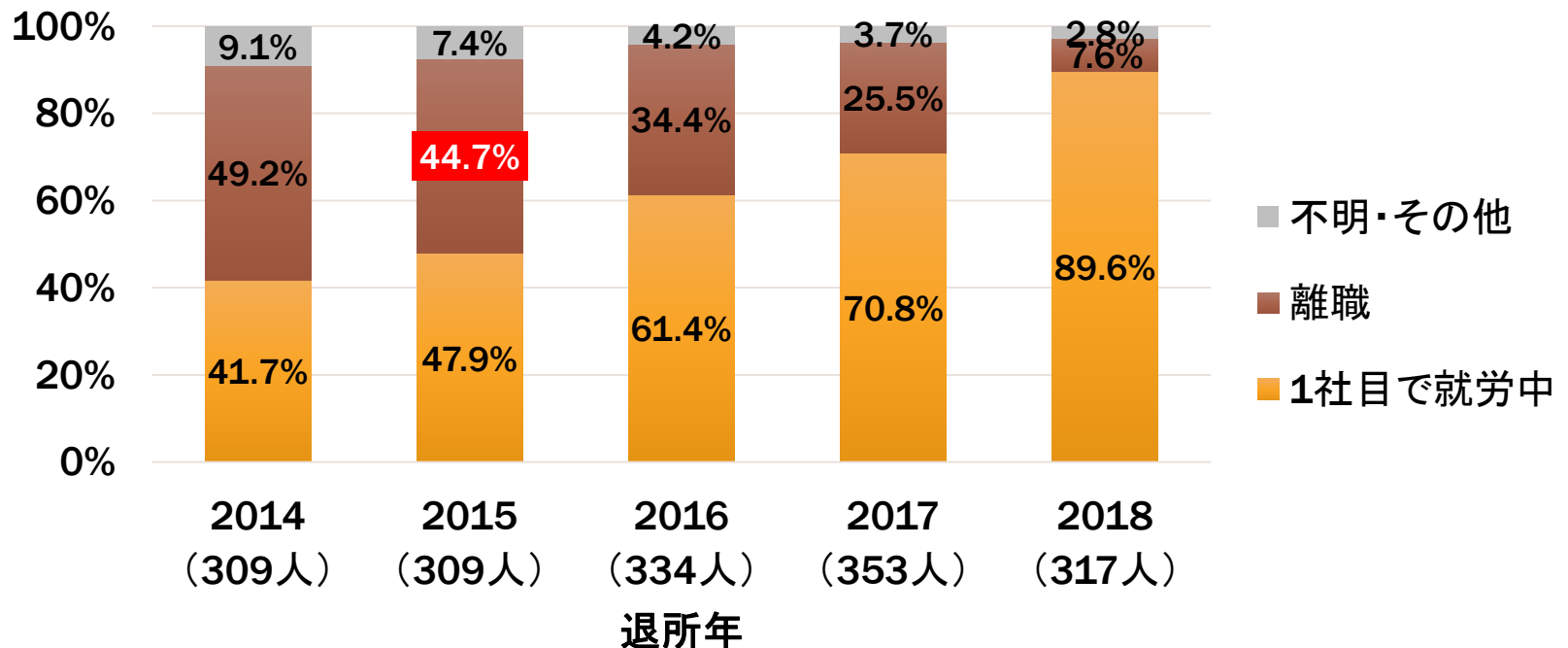


調査結果③

退所者の自力で就職先を見つける力を養成すべき

- 高卒で就労した退所者の離職率は3年3ヶ月で44.7%で、一般高卒生の3年後離職率と大きな差はありませんでした。
- 転職は誰にとっても当たり前となっている社会では、就職活動における知識やスキルが必要です。自ら生活するために働き続けなければならない施設退所者の場合、キャリア形成につながらない仕事に就くことが多いと考えられます。

退所直後の就職先からの離職状況
(2018年6月現在)

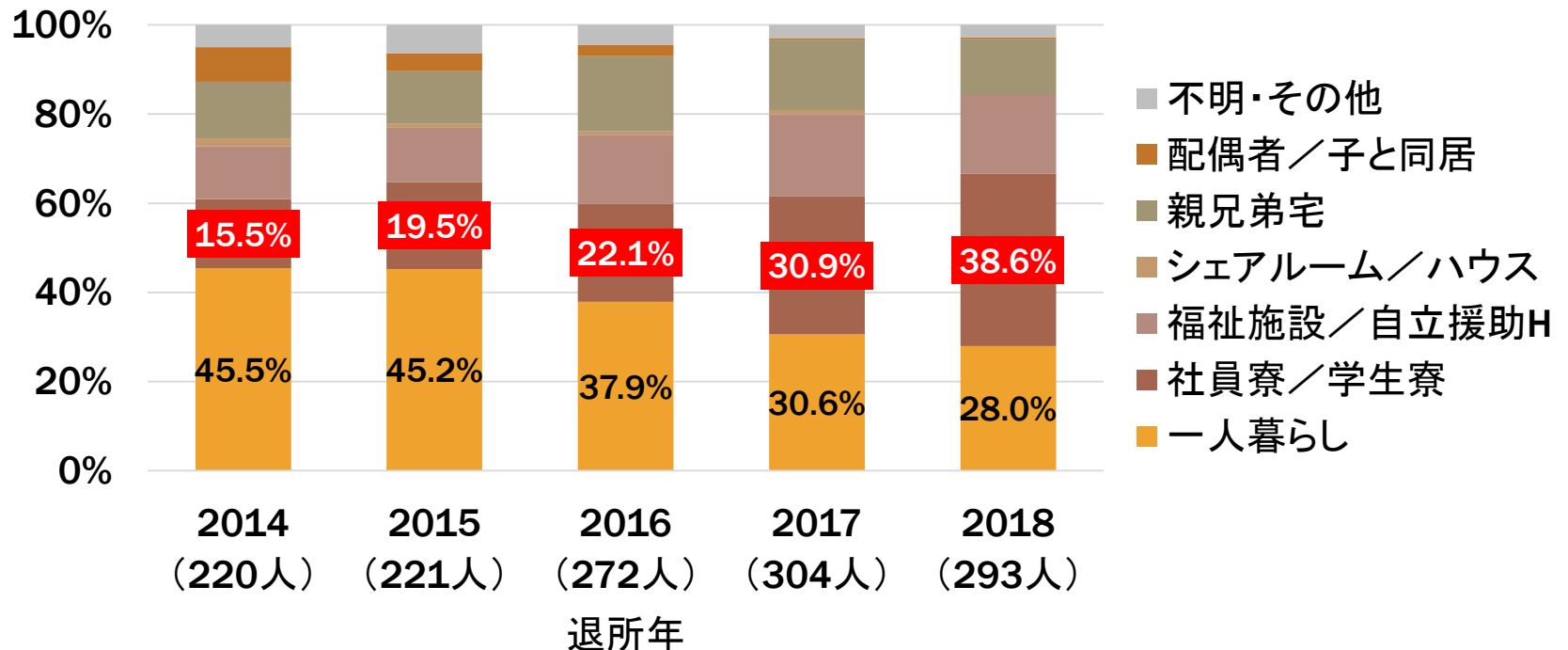


調査結果④

仕事と住まいを分離させて退所後のリスクを分散させるべき

- 就業者の離職率の高さを考えますと、社員寮は仕事と家と一緒に失う可能性があり不安定な状況に置かれていると言えます。退所後の住宅支援制度が整ってきている中では、仕事と住まいを分離させて退所後のリスクを分散させるべきだと考えます。

就業者の住まいの状況
(2018年6月現在)

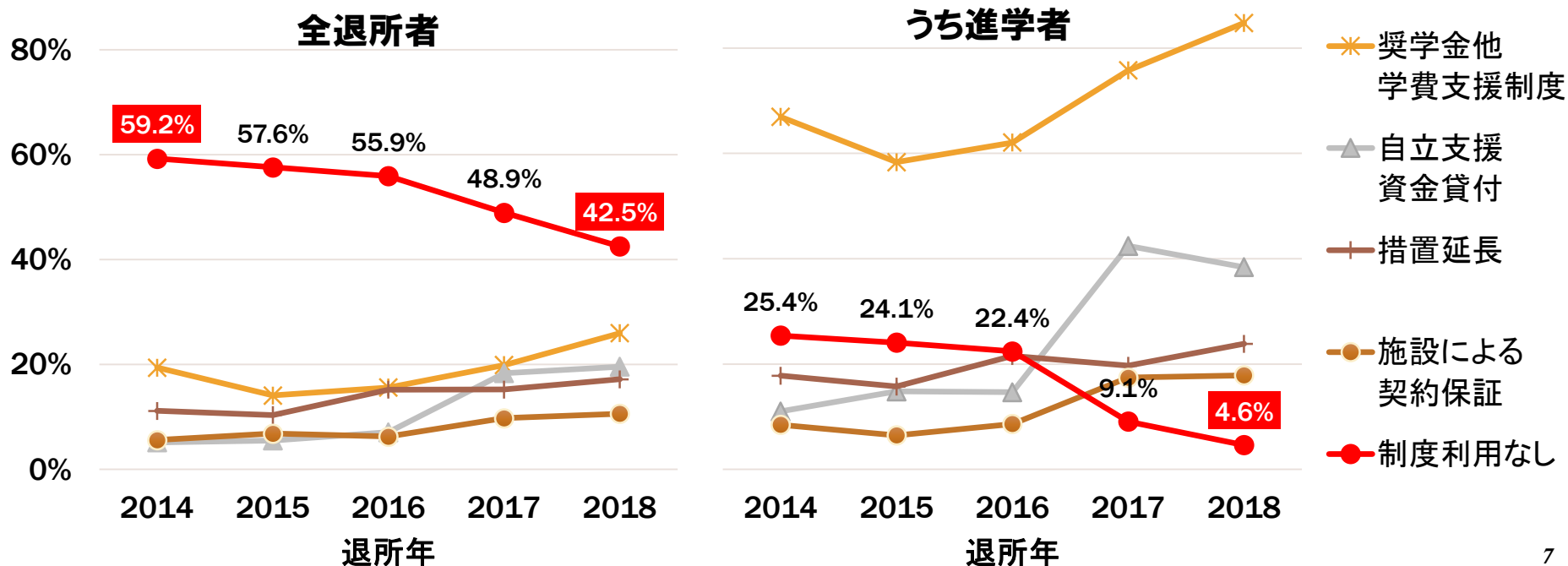


調査結果⑤

制度の充実が進路選択の幅を広げた

- 自治体などの支援制度を利用していない退所者は、2018年退所者では42.5%と、2014年退所者の59.2%から減少していましたが、中でも進学者では、支援制度を利用していない退所者は4.6%でした。
- 制度が進路選択の幅を広げる後押しをしていることがわかります。柔軟なニーズに応えられる制度の改善、支援者の質量ともに増えることが期待されます。

支援制度の利用状況



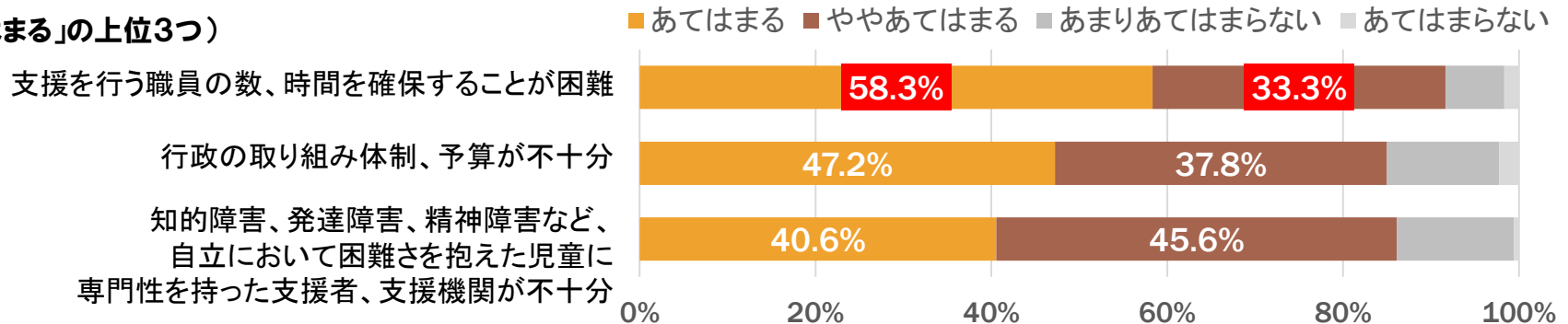
調査結果⑥

関係機関との連携は退所後支援においても重要

- 自立支援、退所後支援の難しさについて、91.6%の職員が「支援を行う職員の数、時間を確保することが困難」と回答しました。
- 社会全体で退所後支援の質量ともに上げていく上では、外部団体に委託していくことは有効だと考えられます。その上で今後、ますます関係機関の連携が退所後支援においても重要になってくるでしょう。

退所後支援のボトルネックとなっている要因

(「あてはまる」の上位3つ)



現場職員の声(自由記載より)

施設職員の手弁当でアフターケアを行うということが、児童養護施設の基本仕様となっており、もはや「労働」の態をなしていません。

現在入所している児童支援も大変な上、片手間にできることではありません。

即対応した方がよい相談事が多く、その場合、情報が足りない、専門的に関われないことがあります。

発達障がいの子も増えて来ているので、それに対応したソーシャルスキルトレーニングをもっと増やしてほしいです。

発達障害を抱える退所者が経済的破綻となるケースが多く、その後の支援や福祉サービスがみつかりにくいです。

おわりに

- 本調査の実施にあたり、ご協力いただいた児童養護施設の職員の皆様に厚く御礼を申し上げます。職員の皆様が日々現場で子どもたちと向き合い、悩みながら支援を行っている様子を窺い知ることができ、気持ちが引き締まります。また、自由記述欄には当団体の支援を活用してくださっている施設から感謝や励ましの声もお寄せいただき、たいへん嬉しく存じます。
- 自立支援、退所後支援において一步でも前に進めるよう、これからも尽力してまいります。